

科目責任者 馬場 正樹（臨床漢方研究室）

■ 教育目的

漢方医学をはじめとして幅広い伝統医療を学び、それらが現代医療の中でどのように貢献しているか理解するとともに、統合医療とは何かを学ぶ。それらに関して基本的知識、技能、態度を実地に習得することを目的とする。

【卒業認定・学位授与の方針：YD-①、③、④】

■ 学習到達目標

1. 世界の伝統医学・伝承薬物を学び、特に漢方医学が現在の医療の中でどのように貢献しているか理解する。
2. 漢方医学の基本的な理論を理解し説明できる。
3. 薬剤師として知っておきたい漢方処方の特徴と効果的な服用方を概説できる。
4. 個々の漢方方剤について、その構成、意味、適応を説明できる。
5. 「漢方薬・生薬認定薬剤師」の必要性を理解する。
6. 鍼灸施設での見学実習を通して、現代医療の中でどのように使われているか理解する。
7. 生薬、漢方薬の品質に関連した試験法を理解する。
8. スポーツファーマシストの役割を理解する。

■ 準備学習（予習・復習）

予習：テキスト等により該当する項目を予習し、事前教育や集合研修などで基礎知識を確かなものとする。（30分程度）

復習：日々の報告書、レポートのフィードバックを有効に使い、実習を通して知識、技能などを一つ一つ確実に習得していく。（30分以上）

■ 授業内容

No.	項目	授業内容	SBOコード
1	事前学習	世界の伝統医療、生薬・伝承薬物、漢方医学の基礎理論 SGDを含む	E2(10)-①-1～4
2	実習、見学実習	8週 of 漢方専門薬局での実習、2週 of 漢方専門企業の試験室での実習、2週 of 鍼灸施設での見学実習、その他薬草園・資料館（本学、東京都）での実習および見学実習	E2(10)-②-1～3 E2(10)-③-1
3	事後学習	報告書作成、調査研究の報告・発表会	E2(10)-③-1 G(3)-①-1～6

■ 授業分担者

馬場 正樹（責任者）、浦辺 宏明、紺谷 園二、杉山 重夫、矢久保 修嗣、片山 昌勅、荒木 信、小池 伸、月村 考宏

■ 課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

レポート、日報は評価の上コメントを付けて返却し、その一部は学内研修時に解説する。

客員講師の評価（50%）、学内研修・実習報告書・出席状況・報告会・概略評価の学内評価（50%）をあわせて総合評価する

■ 教科書

研修施設毎に適宜指示する。

■ 参考書

改訂第5版薬局製剤漢方212方の使い方（じほう）

■ その他

ただ単に実習をこなすのではなく、知識、技能を積極的に習得する姿勢が重要